

まえがき

本書『クラウン英語句動詞辞典』は、姉妹編『クラウン英語イディオム辞典』とともに、『三省堂英語イディオム・句動詞大辞典』を基にしたより handy な分冊精選版で、下記の増補改訂を加えたものである。

典型的な句動詞は、英語本来の get, go, make, put, take のような単音節動詞に、at, down, for, in, off, on, to, up などの通例1音節の不変化詞 (particle) を組み合わせ、統語的・意味的に1つにまとまった動詞として使用されるものである。ただし、本辞典は英米の句動詞辞典と同様に、単音節動詞、単音節不変化詞に限らず、「動詞+前置詞/副詞」の結合をおしなべて句動詞と見ている。そこで、句動詞を形成する動詞は、put, get のような単音節語のみならず、administer, amalgamate, economize, tyrannize のようなギリシャ・ラテン語に由来するものを含み、前置詞/副詞も ahead, across, aside, between, forward のような多音節語を含んでいる。

一方、イディオムと句動詞との振り分けに際し、そのいずれとも判じかねる「動詞+不変化詞」については、読者の便宜を考慮し、本辞典および『クラウン英語イディオム辞典』の双方に収録した。

その不変化詞は次のとおりである。

- ・ in and in, through and through, back and forth 等の同一語 [反義語] の and による連結
- ・ abroad/home, outdoors/indoors, upstairs/downstairs 等の特定の位置方向を表すもの
- ・ aback, aft, aloof, astray, asunder, athwart, awry 等の a- で始まるもの

また、本辞典では句動詞全体の他動性 (transitivity) (i.e. 自動詞, 他動詞の区別) を $\textcircled{\text{A}}$ というロゴマークによって明らかにした。ところで、「動詞+副詞」からなる句動詞の自・他の区別は容易であるが、「動詞+前置詞」からなる句動詞の自・他の区別は非常に困難な場合がある。たとえば arrive at という句動詞の場合、arrive at the station. のように「(場所)に到着する」という意味では自動詞 ($\textcircled{\text{A}}$) であるのに対して arrive at a conclusion のように「(結論など)に到達する」という意味では他動詞 ($\textcircled{\text{B}}$) である。それは No conclusion was arrived at. 「いかなる結論にも達しなかった」のように受身が可能であることから明らかである。詳しくは凡例の 1.1 および 1.2 を参照されたい。

本辞典の主な増補改訂内容は次の4つにまとめられよう。

- (1) 句義の配列を見直し、できる限り使用頻度の高い順に並べ替えた
- (2) 句見出し・句義を増補する傍ら、古いものを削除して up-to-date なものに改めた
- (3) 検索性の向上を図り user-friendly なものにした
 - ・ セミコロン(:)で併記された句義のうち、前後で意味的差異の大きいものを分割し、後半を独立させて新句義として立項した
 - ・ 相互参照 (cross-reference) を一層充実させ、引きやすいものにした
 - ・ □で示した語法解説を見直し、簡潔を旨とした
- (4) 用例の充実・適正化を図った
 - ・ 冗長なものあるいは極端に短いものを、適度な長さで使用頻度の高い用例に

差し替えた

- ・句義のみの箇所、得られる限り簡潔明解で馴染み深い新規用例を追加した
- ・句例および「新聞見出し・リード、広告文、揭示文」を文例に差し替えた
- ・古い内容の用例を up-to-date なものに差し替えた
- ・PC の点で配慮すべき用例および和訳を、より適正なものに差し替えた

この辞典の構想が検討され始めたのは、『三省堂英語イディオム・句動詞大辞典』と同時期の2007年に遡る。そして上記『大辞典』の刊行をみたのち本書執筆が開始されたのであるから、完成に足かけ7年が費やされたことになる。この間、永田龍男氏を中心とした編集委員および執筆者のかたがたには、執筆・校正において全精力を傾注していただいた。また、Paul E. Davenport 氏には全用例を綿密に洗い直しかつ大幅に加筆していただいた。これらのご尽力に対してまことに感謝の念に堪えない。更に今回も三省堂辞書出版部外国語辞書第一編集室編集長の寺本衛氏、同編集室の東佐知子氏の有能かつ献身的なご援助および同編集室諸氏の綿密なご助力をいただいた。心から御礼を申し上げたい。

思えば『新クラウン英語熟語辞典』(1965)より『三省堂英語イディオム・句動詞大辞典』の集大成を経て、ここに再び書名に『クラウン』を文字通り冠する辞典への回帰をみたわけで、この間 実に半世紀近く、版を重ねること五たびとなる。蓋し感慨無量のものがある。

本辞典が姉妹編たる『クラウン英語イディオム辞典』とともに、これまで以上に数多くの読者に愛され、わが国の英語研究と学習とにいささかでも寄与することができれば、これに過ぐる喜びはない。

2014年3月

安藤貞雄